

いよいよ今日から令和8年度が始まります。
正門の桜が、皆さんの新しい門出を祝うかのように見事に咲き誇っています。

『式』と名のつくもの（行事）を大事にしよう！

昨年みなさんに問い続けてきました。こうした、式を重ねる度に、少しずつレベルが上がっていく様子がわかります。

そして、今の皆さんの表情からは、新しい学年、新しいクラス、そして新しいステージに対する期待と、少しの緊張感が伝わってくるようです。

今日私から皆さんに伝えたいのは、「本気で向き合うことでしか見えない景色がある」ということです。

昨年の一学期の始業式でも野球のイチローさんの経験を引き合いにして、お話をしました。『失敗には種類がある』という話でしたが、覚えていますか。

今日は、そのイチローさんが、現役引退の際に語った言葉です。
イチローさんは、こう言いました。

「人より頑張ることなんてできない。 秤（はかり）は自分の中にある。

自分なりに、その秤を少しずつ超えていくと、

いつの間にかとんでもないところまで行ける」

【『自分の秤』のシートを垂らす】

この言葉は、今、新しい学年を迎え、これから自分の「集大成」に向かおうとしている皆さんに最も贈りたい言葉です。特に3年生の皆さん。

いよいよ部活動や行事、そして進路決定という、高校生活の大きな節目、

いわば「自分たちの時代のクライマックス」がやってきます。

「もうあまり時間がない」と焦るかもしれませんが、焦る必要はありません。

大切なのは、他人と比べることではなく、

自分の中にある 「昨日までの自分」 という秤を、

今日、ほんの1ミリでも超える努力をすることです。

もう一人のエピソードを紹介します。

皆さんもよく知る将棋の藤井聡太さんです。彼は、史上初の八冠独占という偉業を成し遂げましたが、勝負に勝つことそのものよりも、「最善の一手を追求すること」に没頭し続けてきました。

彼にとって、対局は「相手との戦い」である以上に、「自分の限界という壁との対話」だったそうです。

これから部活動の集大成を迎える3年生にあえて言います。結果は確かに大切です。

しかし、それ以上に、自分たちが積み重ねてきたプロセスの方が大事なはずで、自分自身に対して、一点の曇りもなく『やり切った』と言えるか。

そこに重きを置いてください。

執念とも言える、一心不乱に「没頭」する姿勢こそが、皆さんの潜在能力を余すことなく引き出し、これまでの自分には見えなかった「新しい景色」を見せてくれる、

『未見の我』に出会わせてくれるはずで、**頑張れ！！**

2年生の皆さん。

皆さんは今日から、この清水西高校の中核を担う存在です。

後輩ができ、先輩を支える立場になりました。あなた方一人一人が、清水西高校の物語の主人公になります。自分の価値や評判は、すなわち清水西高校の価値であり、評判になっていくことを、自覚してください。

2026年の西高は、良くも悪くも君たちに掛かっています。「中だるみ」などという言葉に安易に逃げるのではなく、自らの専門性や興味をトコトン深め極めていく、

「チャレンジする年」にしてください

本校の校訓 『清く けだかく 美しく』

一心不乱に物事に打ち込む姿、一点の曇りもなく、潔い様。

『西高生で良かった』という感情は、自分たちが創るんだ、という高い志。

容姿だとか、外見がどうのこうのじゃなく、内面から溢れ出てくるもの。

その人そのものの、生き様自体が“格好いい” そんな風になってください。

ここにいるみなさん、すべてに言います。

『今まで通りの自分でいいや』とか、『去年までこうやってきたから…』は、出来てもないのに、上手くいってないのに、居心地が良いわけじゃないのに、都合のいい『言い訳』を考えて、自分から逃げているだけかもしれません。

生徒会誌『ともえ』で、『成長する人』、『進化を止めない人』になってほしい、と伝えました。それは、今の自分に簡単に妥協するような人になってほしくないからです。

『良くなりたい』 『上手くなりたい』 『勝てるようになりたい』

そう思えば思うほど、苦しくなる。でも、それが『あたりまえ』です。

先日の三学期終業式でお話した、安藤忠雄さんの言葉をもう一度言います。

『自分自身の価値を上げたいのなら、あえて困難な道を選びなさい。』

『挑戦することでしか、景色は変わらない。』

そして、今日お話しした『自分の中の秤』を思い出してください。

どんなことがあっても、自分の感情や周囲の空気に流されずに、

自分の意志で自分をコントロールしていく。

たった一行でもいい、一回でも一振りでも、なんだっていい。

今の自分を“ほんの少し”でいいから超えようともがく。

『自分を超えていくのは…、自分を超えられるのは…、

自分でしかいないんだ…、自分にしかできないんだ…。』

『今日ぐらいサボってしまおう。』

そんな風に考えてしまいがちな『自分』に負けてしまうのも、打ち勝つのも『自分』。

結局は、他の誰でもなく、『自分』次第 でどうにでもなるということ。

物語の主人公は間違いなく『自分』です。

そして、そんな風に考える人の割合が多く、強くなった時、後々語り継がれる伝説の西高の物語。みんなの物語になると思います。

令和8年度、西高の生徒一人一人が、自分の持てる力を思う存分に発揮し、ここに
いる仲間と、西高でしか味わえない感動を掴み取ることを期待して、

令和8年度一学期始業式の校長訓話といたします。